

農業改良



普及センターだより

中丹の山ブキ・ブランド名決定!



新たに決まったデザイン

中丹地域では、休耕田等を利用した山ブキ栽培をお勧めしていましたが、手作業が中心で女性・高齢者にも適した品目として、栽培される方が増えていきます。

そこで、山ブキを中丹地域の新たな地域特産物として積極的にPRすること

し、ブランド名を公募しました。その結果、122点もの多くの応募をいただいた中から、中丹地域の山ブキにふさわしいブランド名として、「京の山ブキ・里いぶき」に決定されました。中丹地域で採取または生産された山ブキを直売所等で販売される際にご自由に活用ください。また、平成22年7月に開催した「ブキ・シンポジウム」の参加者160名へのア

注目 新たな山菜

「ミョウガ」「畑ワサビ」



ミョウガ

普及センターでは、山ブキのように女性・高齢者でも栽培しやすい山菜として「ミョウガ」「畑ワサビ」を福知山市下野条で試作しています。



畑ワサビ

地元では自生株が獣害・豪雨等で減少しています。いずれもやや日陰を好むため、中山間地のほ場で栽培品目として復活させ、集落の直売所で地域性豊かな商品に育てることを目指しています。

ンケート結果からは、「雑草対策」「鳥獣害対策」に苦勞しているとの声が多数ありました。これらの課題解決に向けて具体的な取り組みを進めます。

京都府中丹広域振興局農林商工部

◆発行◆
2011年(平成23年)3月

にし
中丹西農業改良普及センター

〒620-0055 福知山市篠尾新町1-91
TEL 0773-22-4901

e-mail:chushin-no-nishi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

ひがし
中丹東農業改良普及センター

〒623-0012 綾部市川糸町丁畠10-2
TEL 0773-42-2255

e-mail:chushin-no-higashi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

中丹地域の重点課題の解決に向けて

直売所の魅力を発信 消費者にアピールを

者が自分達の直売所の魅力を発信する「プレゼンテーション実習」を行いました。今後、農家のこだわりを消費者に分かってもらい、さらに直売所の売り上げアップと活性化に向け支援していきます。



参加者の前でプレゼンテーション実習
(米粉肉まんづくり)

農家と消費者の双方から直売所に対する人気が高まっており、消費者はより安全なもの求めています。普及センターでは、平成22年7月に安心・安全な農産物づくりのため農薬使用履歴記帳の実際、加工食品の安全性を高めるコールドチェーン保持の大切さを講習しました。秋には、農家の生産へのこだわりや食べ方をアピールできる人材育成を目指して直売所のリーダーを対象に「キャリアアップ講習会」を開催しました。普及センター職員が実演を示すとともに、プレゼンテーションの心得やテクニックを講義しました。冬には出席者が自分達の直売所の魅力を発信する「プレゼンテーション実習」を行いました。

新品種「京都万願寺2号」 の現地栽培



ほ場で生育を確認

平成22年度に「京都万願寺2号」の展示・比較栽培(露地)を栽培農家の6ほ場で実施しました。

「京都万願寺2号」は京都府が育成した品種で、「京都万願寺1号」に比べ、①総収量が多い、②辛味果が全くない、③アントシアン果が少ない、という特徴を持っており、現地での栽培でも総収量は1.3倍、アントシアン果は1%程度という結果でした。比較栽培を実施いただいた生産者も、やや変形果が多いが収量も多く、アントシアン果はほとんどなかったとの声でした。今後、栽培マニュアルを作成し新品種の定着に向け支援します。

「京夏ずきん」 「紫ずきん」の取り組み



「京夏ずきん」の栽培

8月中下旬に出荷できる黒大豆枝豆「京夏ずきん」の実証栽培を中丹地域の9カ所のほ場で実施しました。お盆をはさんでの出荷になりますが、目標の単価(1000円/kg)単収(400kg/10a)をクリアでき、来年度は面積の拡大が期待されます。また、舞鶴地域では、紫ずきん生産者グループが収穫調整機械を導入し、大規模生産の取り組みをはじめました。はじめは試行錯誤もありましたが、約2haの紫ずきんを出荷することができ、来年度も更に生産拡大と作業の効率化を図りたいとの意向で、普及センターは省力機械化体系の確立に向け支援を続けます。

新規就農者向け 農業講座の開設

真剣な表情の受講者



近年、中丹地域に新たに就農しようとする人が増加しています。栽培技術は、各種栽培講習会等によって学ぶ機会が多いことから、経営者として知っておいてほしい農業に関する法律や制度等の講座を「1から知りたい、農業ビギナーのQ&A」と題して平成22年10月から5回シリーズで開講しました。講座では、農地法や農産加工関連法律及び納税の方法等の基礎知識について学習するとともに、指導農業者や小売業者の実践に基づいた講義から消費者ニーズの大切さを学びました。受講生の19名からは、日頃の営農活動では得られにくい情報が得られたとか、新鮮に感じたなど意見がだされました。今後は、新たな分野の知識や先輩農家の農業関連会社の体験談など講義・講演の機会を増やし、新規就農者への支援を続けます。

農作業 安全

高齢化や機械の大型化が進む中で、毎年、約400件の農作業死亡事故が全国で発生し、農業就業人口に占める事故件数は年々増加しています。京都府でも昨年3件の死亡事故がありました。このため、事故が多く発生する春作業前に安全対策等の徹底を図りましょう。



農の匠

梅原岩男さん
(綾部市西原町)

京都丹の国和牛改良組合役員などを歴任され、活動を通じて技術の伝承を図られています。

飼育技術では、系統間交配による和牛改良を進めるとともに、日頃の観察と適切な飼料供給を重視した子牛の育成技術を確立されました。その優良子牛生産技能が平成22年度京都府農山村優秀技能「農の匠」として認定されました。

地域再生に立ち上がる!

舞鶴市岡田中地区

舞鶴市の岡田中地区では、平成21年度から京都府の「共に育む『命の里』事業」に取り組み、住民一丸となって地域の再生を図ろうと頑張っています。地域が抱える課題に対応するため5つの検討委員会を設置し、廃校の利活用方法や移住者用の空き家整備、効率的な地域組織・行事のあり方等について熱心に検討が続けられています。

平成22年6月からは普及センター職員が「里の仕事人」として地域に入り、地域再生をサポートしています。

女性農業士



川勝 初美さん
(福知山市大江町)

私は、40歳の時に母が倒れ、介護をしながら父親と農業をしてきました。今は野菜を作り、朝市グループにも参加し、色々なお店にも顔を出して、たかさんの人の食卓をうるおす野菜作りをめざしています。人生に悔いがない仕事をしていきたいです。

女性農業士



藤原 みや子さん
(福知山市夜久野町)

「豊作の手始めは土づくりから」と土づくりに励み、学習会や先進農家・経験者から学び実践することで、商品価値の高い野菜作りを目指しています。若者らに農業を取り組んでもらえるよう、私自身身動き見本となるよう頑張りたい。

退任された農業士さん

大島 節子さん(綾部市)
和田 一榮さん(福知山市)

お世話になりました。



新しい農業士さん

指導農業士



尾崎 秀雄さん
(舞鶴市与保呂)

以前は食品関係の業務に従事していましたが、故郷の耕作放棄地が増えることに危機感を持ち、先を見通した農業の構想を廻らせてきました。若い農業者の育成も考えて、農業生産グループ「創人楽農」で紫ずきの省力化栽培に取り組みんでいます。また、今後は、付加価値の高い農産物づくり、加工食品の開発などを目指しています。

女性農業士



河野 悦子さん
(福知山市三和町)

ハウス2棟の万願寺甘とう栽培を中心に営農を行っています。農作物というのは手をかければかけた分だけ育ち、実をつけるので、農業はやり甲斐のある仕事であることを、もっと多くの人達に知ってもらえればと思っています。他の皆さんとのネットワークを築く中で、様々なことを学ばせていただければと思います。